



東海メディカルプロダクツ
筒井宣政会長が
世界大会出場を報告
—7月1日(金)
於名古屋観光ホテル



▲世界大会の様様をスクリーンで上映

「亡き娘の遺志が企業理念」と世界にメッセージ

医療機器メーカー・東海メディカルプロダクツ（愛知県春日井市）の筒井宣政会長（74）が、すぐれた起業家を表彰する「アントレプレナー・オブ・ザ・イヤー2016」世界大会（6月7日〜12日、モナコで開催）に日本代表として出場。

7月1日、名古屋観光ホテルで出場報告会を開催しました。筒井会長は関西学院大学を卒業し、父親が起こした樹脂加工会社に入社。

専門外だった医療機器の研究開発に取り組んだのは、次女・佳美さんが先天性の心臓病を患っていたことがきっかけ



◀「これからも、一人でも多くの命を救いたい」と筒井宣政会長。モナコで開催された世界大会にも和装で参加し、注目の的に



◀大村秀章愛知県知事が「ますます、ものづくり愛知を支えていただきたい」とあいさつ



▲右から筒井康弘社長、筒井宣政会長、会長夫人・陽子さん、会長長女・奈美さん、会長孫・美咲さん。美咲さんの着物は、故佳美さんが成人式に着たもの

けでした。

佳美さんは手術がかなわず、蓄えた手術費用を財源に人工心臓の開発に着手。

そのノウハウが、心筋梗塞などの応急措置に使う「バルーンカテーテル」に結実したのです。

世界大会では、こうした歩みを英語でプレゼンテーションし、参加者やメディアの感動を呼びました。

報告会では大会の記録映像

を上映。参加した政財界、文化・学術関係者など約400人が健闘を讃えました。

大村秀章愛知県知事があいさつに立ち「ものづくり愛知を支え、多くの命を救う優良企業。さらに磨きをかけていただきたい」とエールを送った。

筒井会長は「オリンピックより前に日の丸を背負うとは感無量。娘を救いたい一心で門外漢が医療機器開発に取り組みました。

「一人でも多くの生命を救う」を理念に、他社が手がけない、生まれたばかりの赤ちゃんにも使える小さくて細かいカテーテルも手がけています。今後も品質優先で、病に苦しむ人たちのお役に立ちたい」と感謝を述べました。